

TOPIC 1 板ガラスの「水平リサイクル」実現可能性を確認

(一社)板硝子協会が、使用済みの建築用板ガラスから新たな板ガラスを製造する「水平リサイクル」が可能であることを確認したと発表した。

同協会は、2024年4月よりサステナビリティ特別委員会(委員長:同協会 森重樹 会長)を設置。傘下にホールライフカーボン部会(主査:芝浦工業大学 秋元孝之 教授)、板ガラスリサイクル・再資源化部会(主査:東京大学 清家剛 教授)を置き、リサイクル制度の確立に向けた活動を行ってきた。戸建住宅やマンション、ビルの改修現場において、適切な取り外し・分別・保管を行う実証実験を実施した結果、技術的・運用上の実現可能性を立証した。

実証結果を踏まえ、26年度は「地域循環スキームの構築」と「回収促進ガイドラインの作成」に注力する。地域循環スキーム構築に向けては、26年5月25日に「ガラス・カレット リユニオン協議会」を発足。地域ごとの特約店を集

積拠点とし、ガラス販売店から廃ガラスを回収してカレット業者へ渡す体制を目指す。また、関係事業者以外のリサイクルも促進するため、「解

体現場等から排出される板ガラス製品のリサイクルを促進するための回収ガイドライン」の作成を進めている。

一方で、実用化に向けた最大の壁はコストだ。大規模マンション改修の実証実験では、カレット単価で418円/kg(合計約180万円)の費用がかかった。こうした制約を取り除いた試算でも約100円/kg前後と想定され、回収や物流の効率化によるコスト低減が足元の課題だ。



シンポジウムでは、実証実験の成果報告とともに、リサイクルの今後の課題について話し合った

TOPIC 2 積水化学工業、豪オースビルドを連結子会社化

積水化学工業は、全額出資子会社を通じて豪州クイーンズランド州(QLD州)の宅地開発・住宅大手「Ausbuild(オースビルド)」の株式51%を取得し、連結子会社化すると発表した。取得価額は約3億3500万豪ドル(約372億円)で、2027年1月に株式譲渡を実行予定。同社住宅カンパニーとして過去最大規模のM&Aとなり、日本で培った工業化技術(モジュラー工法)を強みに豪州市場へ本格参入する。

今回の豪州でのオースビルドの子会社化の背景には、人口増加に伴い慢性的な住宅不足が深刻化するQLD州の課題がある。また、2032年ブリスベン五輪を控えて住宅需要の拡大が見込まれる一方、建設労務費の高騰や人手不足が課題となっている。さらに、住まいの標準化が進み、規

格化住宅の受容性が高い市場であることも含めて、モジュラー工法の強みを生かせると判断。オースビルドに加えて、同州政府も省施工・短工期のモジュラー工法に関心を示す中、豪州市場への本格参入を決めた。

オースビルドは1988年設立(創業38年)、ブリスベンを拠点に宅地開発と住宅建設を一体運営するデベロッパー兼ビルダーだ。年間約700~800棟を供給。2026年6月期の売上高は約6億5900万豪ドル。累計99の分譲地を開発し、住宅供給は1万戸超。2025年度州ホームビルダー着工件数でトップ5にランクインしている。

オースビルドの子会社化により、現地の豊富な開発用地や販売・施工体制を活用し、BtoB、BtoCの戸建・分譲住宅の供給拡大を目指す。

新刊

省エネ基準の義務化へ 関連法令を一冊に集約

傘創樹社

必携

住宅・建築物の省エネルギー基準関係法令集 2025

住宅・建築に関わる企業、地方自治体、性能評価機関などに向けた必携の書

